

3 学期修了式

令和3年3月25日
校長 豊岡耕一郎

皆さんこんにちは、今年度は最後まで皆さんの顔を見ながらのお話はできませんでした。今回も放送にて修了式のあいさつをいたします。

昨年度末、新型コロナウイルス感染症で学校が臨時休業してからちょうど一年が経ちました。この間、学校行事や部活動などがことごとく中止となり、また、日常生活でも様々な制約がかかるなど、心が晴れない日々が続いたかと思います。改めて、普段通りの学校生活を送れることの大切さや、人と人とのふれあいの大切さを実感できた一年でした。それでも皆さんは、自分の進路実現のため、今できることに懸命に取り組んでいました。まずは、目標を見失うことなく、この一年間を過ごした自分の頑張りを、誇りに思いましょ。そして気分を新たに、次年度での躍進を誓いましょう。

このようなコロナ渦の大変な時期だからこそ、新しいことに挑戦する前向きな気持ちが大切です。これは皆さんだけでなく、私たち大人にも言えることです。不安な時や苦しいときに立ち止まってしまうと、余計に気分が沈んで落ち込んでしまいます。私は、苦しい時ほど、物事を単純に前向きに考えて行動するようにしています。色々考えこんで深刻な顔をしていても、苦しさが減るわけではないので、意図的に笑ってまず行動します。そうすると気持ちがぐっと楽になってそのうち忘れてたりしています。大変な時ほど、気持ちを前向きに持って、仲間と励ましあいながら行動することを心掛けてください。

さて、私は今まで大崎高校の校長として、皆さんにいろいろと思いをお伝えしてきましたが、こうやって

皆さんにお伝えできるのは本日が最後となりました。

大崎高校でのこの3年間は、本当に充実した日々で私にとって大きな宝物となりました。毎朝や帰りがけに交わした挨拶、教室で真剣に授業を受けている様子、グラウンドで大きな声を出して楽しそうにボールを追っかけている様子、放課後の部活動の様子などなど、どんな場面を切り取っても、皆さんから多くの笑顔を頂いたことに感謝いたします。このように、誰もが礼を正し、相手を思いやる心を持ち、明るく挨拶してくれる気持ちの良い生徒がいる学校を、私は他には知りません。これは、皆さんにとって大いに自慢できることなのです。それと同時に、私は、君たち大崎生の力はまだまだこんなものじゃないと思っています。

皆さんは、良く「うちら馬鹿だから」といったことを言います。馬鹿という言葉は好きではありませんが、勉強できないから馬鹿ではなく、やるべきことをやろうとしないから馬鹿なのです。君たちはやる前から、あるいはちょっとやっただけで、自分の限界を勝手に決めて、程々のところでやめてしまうところがあります。もっと自分を信じて、とことんやってください。

それと、もう一つ考えてほしいことは、時間の管理です。随分と無駄な時間を過ごしていませんか。時には気分転換が必要な時もあります。でも、本当にやらないといけないことがある時は、そんなことは言っていられないはずです。この今を、全力で本気で取り組んだかどうか重要なことであり、結果はあまり重要ではありません。今のこの時期にどれだけ打ち込めたかが、後々の皆さんの人生において、大きな糧になるのです。

私は、皆さんの頑張っている姿を見ることが何よりも楽しみでありましたが、これからも、陰ながら応援していきたいと思います。

それでは皆さん、今度再開するときには、さらに成

長している皆さんに出会えることを楽しみにして、修了式の挨拶とします。